

第2節 絵本の読み聞かせとビデオ絵本の視聴による物語理解度の違い

藤後 悦子・磯 友輝子・坪井 寿子・坂元 昂

要約

本研究は、子どもの外界認知能力のうち、その対象として今後使用が高まると予想されるビデオ絵本を取り上げ、絵本とビデオ絵本の教材の違いが幼児の絵本の物語理解に与える影響を明らかにした。

その結果、絵本の読み聞かせは、物語の文脈を把握することや物語の内容理解に優れていた。一方ビデオ絵本は各場面の映像を記憶することに優れていることが明らかとなった。以上より、ビデオ絵本を使用して物語理解を高めるには、導入部分に時間をかけること、3歳児、4歳児ではビデオ絵本視聴後、大人と物語の内容を確認し合うことが有効であることが示唆された。

キーワード

絵本, ビデオ絵本, 物語理解

1. 問題と目的

はじめに、第3章における第2節の位置づけを述べておく。第2節は、幼児期の外界認知能力のうちその対象として、子育て期や育児期に一般的に利用可能性が高い絵本やビデオ絵本をとりあげ子ども達が絵本やビデオ絵本の物語をどのように認知し、理解しているかを明らかにすることとした。

保育や子育て分野では、絵本の読み聞かせは重要な教育活動として位置づけられている。1980年代後半から、絵本と類似する教材としてビデオ絵本が登場し保育現場や家庭などで活用されつつある。ビデオ絵本とは、国内外の名作絵本を映像化したものであり、主に一人の読み手に合わせて映像が動くものである。

さて、従来の研究より絵本の読み聞かせ効果としては、コミュニケーションの増加や改善（川井・高橋・古橋, 2008）、社会性の発達（堂野・光本・堂野, 2007）などが幅広く示されている。一方、ビデオ絵本と類似する視聴覚教材であるビデオ視聴に関しては、それが長時間になってしまうと子どもの表情の乏しさやコミュニケーションの未熟性というマイナス面に影響が及ぼされているとの指摘がなされている（土谷, 2001）。

それでは、絵本により近いビデオ絵本では物語の内容を子どもたちはどのように理解しているのか、またビデオ絵本は、子どもたちにどのような効果を及ぼすのであろうか。ビデオ絵本に関する先行研究を概観した結果、その効果を検証した研究は、あまり見当たらない。そこで、今後使用が高まると予想されるビデオ絵本を取り上げ、教材（絵本とビデオ絵本）の違いが子どもの物語理解に与える影響を年齢別に明らかにすることを目的とし、併せて子育てや保育現場への有効な活用方法について検討することを本節の目的とした。

2. 方法

(1) 実験参加者

関東地方の幼稚園児 180 名（3 歳児 49 名，4 歳児 60 名，5 歳児 71 名）

(2) 実験デザイン

年齢 3（3 歳/4 歳/5 歳）と教材 2（絵本/ビデオ絵本）を独立変数、正答率を従属変数とした。

(3) 手続き

絵本の読み聞かせおよび、ビデオ絵本の視聴が終わった後に子どもたちに質問を行った。当初絵本の読み聞かせおよびビデオ絵本の視聴方法として、1 人グループ、3 人グループ、多人数というグループ条件を設定したが、グループの人数が 5 未満となるため本研究ではグループ条件は除き、合算として分析することとした。また、実験者は、子どもに質問を伝える際、口頭のみで質問するのではなく、質問と関連する絵本の一場面を手がかりとして示した(Figure 1 を参照)。

(4) 実験材料

絵本は、さとうわきこ作「おつかい」（福音館書店）、ビデオ絵本は、原作本：福音館書店「おつかい」（TDK コア株式会社）を使用した（Figure 2 を参照）。

(5) 指標物語

内容理解に関して 7 つの項目を用意した。最初の 6 問は、○×で答えられるものとし、最後の 1 問は自由に回答できるものとした。具体的には、問 1、問 2 は物語の文脈を理解しておかないと答えられないもの（例：「この絵本の題名は、あめふりです。○でしょうか。×でしょうか」ストーリーの大半は雨の中の出来事であるため、おつかいという主題を理解しておかないと回答できない）。問 3～6 は物語の内容の記憶に関する質問を尋ねた。本研究では、○×で答えられる問 1～6 までの 6 つの項目のみを分析対象とした。

具体的な項目は、以下の通りである。各問の後には、「○でしょうか。×でしょうか」と質問した。

問 1 「この絵本の題名は、あめふりです」

問 2 「女の子が窓から外を見ている時、お母さんが言った言葉は、『雨だね』」

問 3 「ここに女の子がいます。女の子の傘を運んだのは、犬です」

問 4 「女の子の髪の毛がぐしゃぐしゃになる時、お母さんが持っていきなさいと言ったのは、帽子です」

問 5 「女の子が、最初から最後までずっと持っていたのは、あめです」

問 6 「女の子が、外に出ようとしたとき、雨はやんで晴れていました」



Figure 1 実験の様子



Figure 2 題材の絵本

3. 結果と考察

はじめに、問1から問6までの正答数を合計し、年齢別に正答率を算出した結果、3歳児の正答率は51.0%、4歳児は58.6%、5歳児は66.7%であった。そこで、年齢別の正答率の違いをみるために χ^2 検定を行ったところ有意差が示されたので($\chi^2=17.98, df=2, p<.01$)、残差分析を行った結果、3歳児の正答率が低く、5歳児の正答率が高かった。つまり、年齢が上がるにつれ、物語内容の理解度が高まったといえる。

次に全学年および各年齢の間1から問6までの正答数を合算し、教材別に正答率を算出した結果をFigure 3に示した。Figure 3に示す通り、ビデオ絵本の正答率は、3歳児が54.0%、4歳

児が 59.5%, 5 歳児が 66.7% あった。一方、絵本の正答率は、3 歳児が 48.8%, 4 歳児が 57.8%, 5 歳児が 66.7% であった。年齢ごとに教材別正答率の相違を χ^2 検定で分析した結果、統計的な有意差は示されなかった (3 歳 $\chi^2 = .77, df=1, n.s.$; 4 歳 $\chi^2 = .11, df=1, n.s.$; 5 歳 $\chi^2 = .00, df=1, n.s.$)。

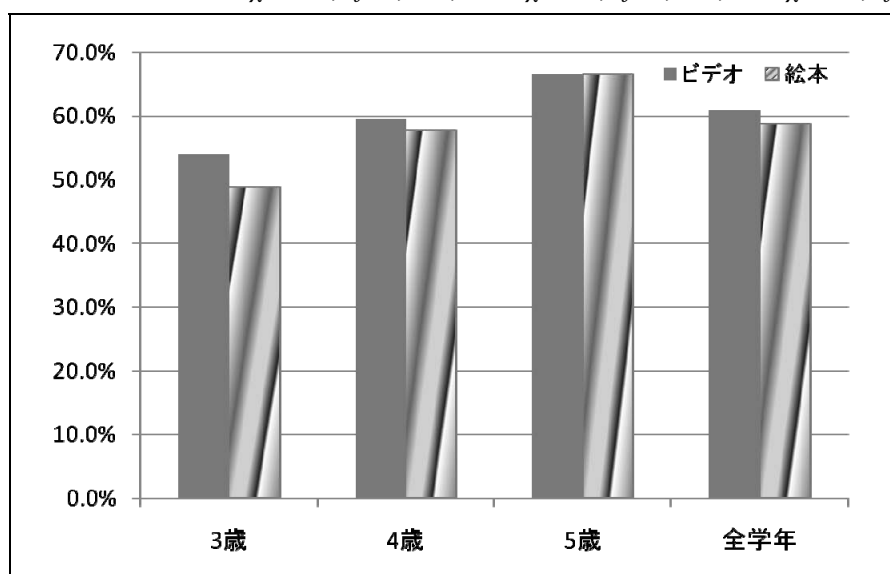


Figure 3 年齢ごとに問1から問6の正答数を合算した正答率

次に各問における年齢別の正答率の相違について分析した結果、Figure 4 に示す通り、問1、問3、問5で有意差が示された(問1 $\chi^2 = 12.11, df=2, p < .01$; 問3 $\chi^2 = 13.40, df=2, p < .01$; 問5 $\chi^2 = 4.61, df=2, p < 0.1$)。残差分析を行った結果、問1では、5 歳児の正答率が高く、問3では3 歳児の正答率が低く、5 歳児の正答率が高く、問5では4 歳児の正答率が高かった。

各問における内容を確認すると、問1は、物語のタイトル「おつかい」を尋ねる質問であった。教材「おつかい」の物語は、雨の降る中、ぼうし、傘、ボート、食べ物などさまざまなものをおつかいに持って行こうとする話であり、各ページの内容は雨に対応して、それぞれの物を持っていくという場面構成になっていた。ゆえに物語の内容のテーマをおつかいではなく、雨との関連として認識しやすいのである。言い換えるならば、本の物語のテーマを捉えることができていないとタイトルを記憶するのが難しいのである。問1のタイトルの想起に関しては、3 歳児、4 歳児では正答率が低かった。つまり、3 歳児、4 歳児では目の前の場面の内容にとらわれてしまい、物語のテーマを捉える力が十分ではなく、これはメタ認知の発達とも関係するといえる。

有意差が示された問5「女の子が、最初から最後までずっと持っていたのは、あめです」では、4 歳児の正答率が高かった。5 歳児で正答率が下がった理由として、子どもの語彙力の増加と概念形成の狭さが挙げられる。子どもの発言に「あめじゃないよ。キャンディーだから×だよ」というコメントがあり、質問で用いている「あめ」以外の類似の表現を獲得し始めているが、単語を文脈の中で置き換えることができず、キャンディーとあめは違うという認識ゆえに、戸惑いが示され、回答率が下がったものだと考えられる。

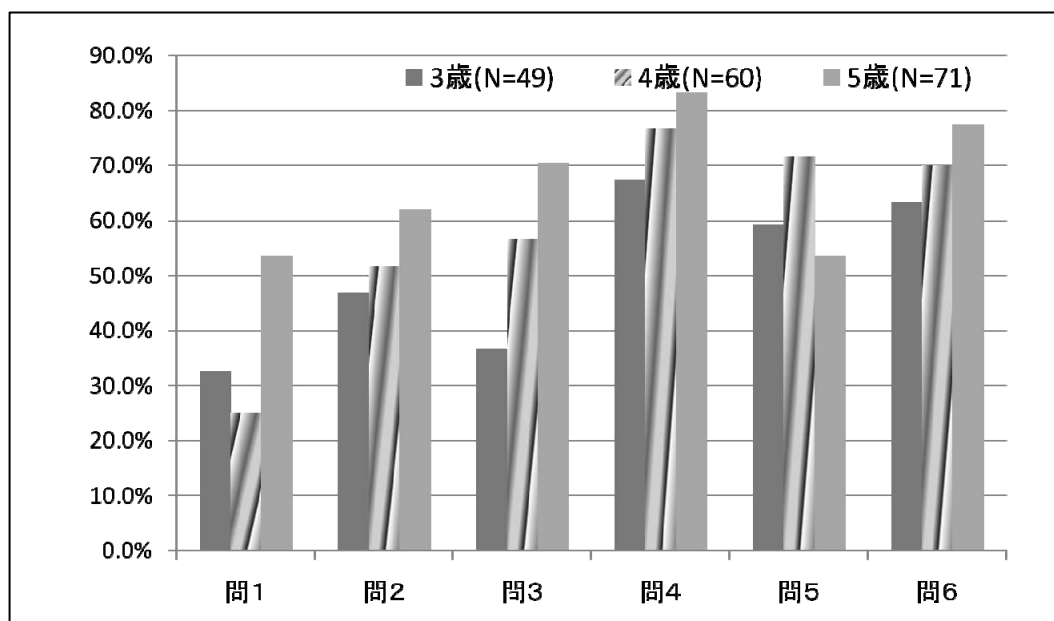


Figure 4 各年齢の問1から問6の正答率

次に、各問において教材（絵本/ビデオ絵本）による物語理解の正答率に違いがあるかどうかを検討するために、各問における教材を独立変数、正答数を従属変数として χ^2 検定を行った。その結果、各問において、教材による有意差は示されなかった（問1 $\chi^2=0.40$, $df=1$, $n.s.$; 問2 $\chi^2=0.33$, $df=1$, $n.s.$; 問3 $\chi^2=1.54$, $df=1$, $n.s.$; 問4 $\chi^2=0.00$, $df=1$, $n.s.$; 問5 $\chi^2=0.21$, $df=1$, $n.s.$; 問6 $\chi^2=0.02$, $df=1$, $n.s.$ ）。つまり、問1、問3、問5において年齢による正答率の違いが示されたが、教材による影響は示されなかったのである。

そこで、年齢別に各問における教材による物語理解の正答率について検討した。その結果、Figure 5に示すとおり、3歳児では、問4において有意差が示され（ $\chi^2=8.94$, $df=1$, $p<.01$ ）、残差分析の結果、ビデオ絵本の正答率が絵本より高かった。問4は、「女の子の髪の毛がぐしゃぐしゃになる時、お母さんが持っていきなさいと言ったのは、帽子です」という問であり、記憶力が関連する課題である。3歳児は物語全体の流れを理解するというよりも場面ごとに理解していく傾向があった。そのため各場面に動作が伴うビデオ絵本の方が場面の視覚的印象が高まるため正答率が高かったのであろう。

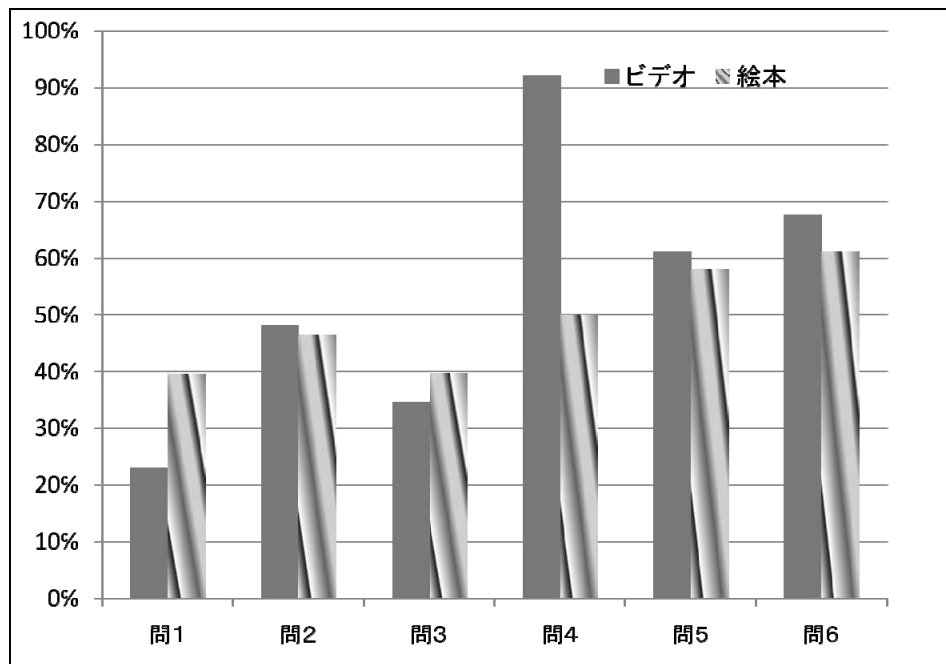


Figure 5 3歳児における各問の正答率

4歳児では、Figure 6の通り問2において有意差が示され ($\chi^2 = 5.51, df=1, p < .05$)、残差分析の結果、ビデオ絵本の正答率が絵本より高かった。問2とは、「女の子が窓から外を見ているとき、お母さんが言った言葉は『雨だね』。という質問であった。これは、ビデオ絵本の場合、雨の音が強調されるなど、各場面が記憶に残りやすい構成であったことからビデオ絵本の方が正答率が高かったと推測される。

この結果は、滝沢 (1985) が指摘している「子どもの眼をひきつけやすい画面は、比較的単純な場面で、背景からそれがくっきり浮かび上がって、明瞭に知覚できるようなものであり」という内容と合致するものであった。

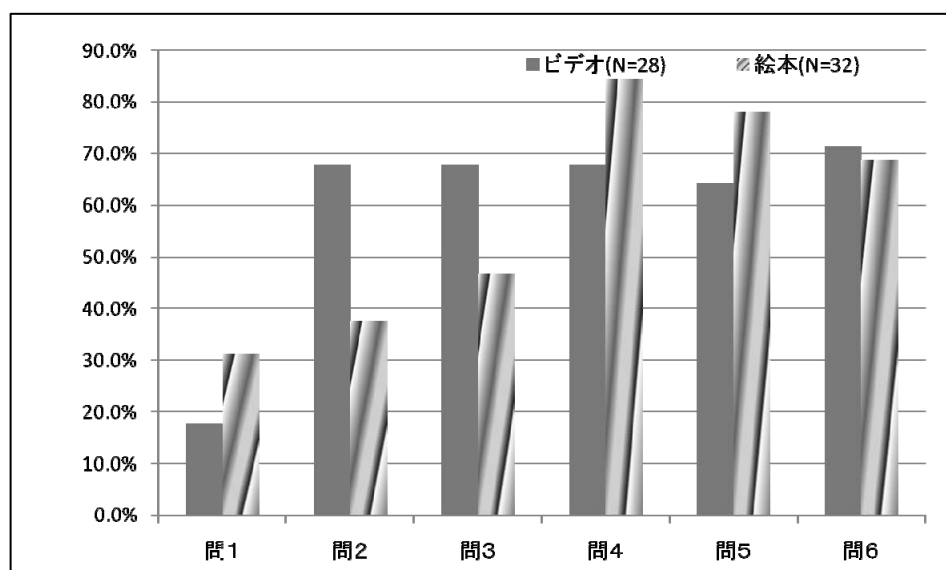


Figure 6 4歳児における各問の正答率

第3章 未来型のこどもの対人認知・コミュニケーション能力と促進法

5歳児では、Figure 7の通り、問4において有意傾向が示され ($\chi^2=2.72, df=1, p<.10$)、残差分析の結果、絵本の正答率がビデオ絵本より高かった。問4は、「女の子の髪の毛がぐしゃぐしゃになる時、お母さんが持っていきなさいと言ったのは、帽子です」という問であり、3歳児ではビデオ絵本の正答率が高かった問である。5歳児になるとページごとの場面ではなく、物語のストーリーを理解することが優先されるため、場面の特徴が強調されるビデオ絵本ではなく、ストーリー理解がより可能である絵本の正答率が高まったのではないだろうか。

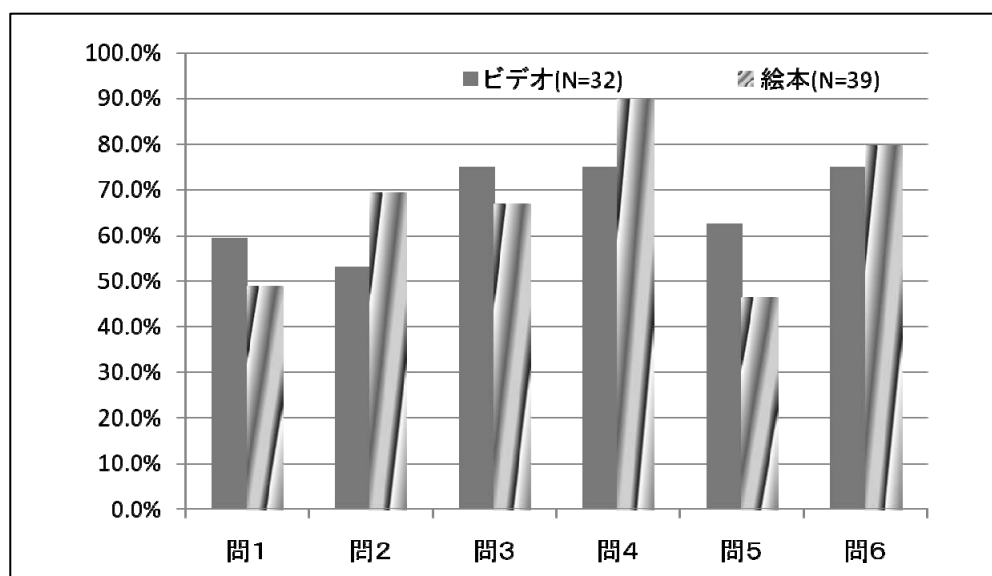


Figure 7 5歳児における各問の正答率

最後に、問1の項目について各年齢の傾向を概観する。年齢ごとの各問の正答率を検討した結果、問1では5歳の正答率が高かった。これはメタ認知が発達し、ストーリーの流れを理解することが可能となったことと関係するのであろう。問1の3歳児、4歳児の結果を見てみると、統計的な有意差は示されなかったものの、3歳と4歳の両者において問1の正答率は絵本の方が高かった。つまり、ビデオ絵本においては、動作やアニメーションという視覚的な情報が豊かになるため、場面ごとの理解や、記憶は高まるが、物語全体の流れを理解するという点は、絵本の方がすぐれているのである。これは、滝沢(1985)が、「子どもの思考と認知発達」のテレビに関する記述の中で、ただ、テレビを見るだけでなく、誰かと一緒に視聴し、そのあとで、話し合い、(1)映像の本質的な部分を選びとり、末梢的な部分を無視する作業、(2)こうして選択された映像を秩序づける操作、(3)これらの映像的知識を超えて、推論する捜査、という3つの操作が進行し、視聴能力が発達していくこととなる。だからこそ、親子や友達と視聴し、疑問の個所を尋ね合ったり、感想や意見を述べ合うことがきわめて大切となると指摘していることと合致するものである。

また問1は、絵本のタイトルという、いわば物語の導入部分に関する質問であった。絵本の読み聞かせの場合、子どもたちの反応に合わせて導入部分に時間をかけることが可能となる。ビデオ絵本の場合、スイッチを入れると子どもの様子に関わらず物語は開始される。このことからビデオ絵本を活用する場合、スイッチを入れる前の導入部分を丁寧に扱うということ、またビデオ絵

第3章 未来型のこどもの対人認知・コミュニケーション能力と促進法

本を視聴した後、物語のストーリーを簡単にまとめたり、ストーリーについて子どもたちと感想を述べたりという関わりの工夫が求められる。これらの工夫によって、場面ごとの理解ではなく、物語の意図やストーリー理解が高まるのではないかと考えられた。

絵本の読み聞かせであっても、3歳児や4歳児は場面ごとの理解が中心となり、物語の流れやあらすじを理解することが難しい場合がある。特に少し長めのストーリーの場合、読み終わった後、簡単にストーリーを振り返ってあげることも物語理解にとっては有効かもしれない。

以上の結果を踏まえ、今後は絵本やビデオ絵本によるコミュニケーションの効果など、さまざまな側面への効果検討が求められる。

4. 参考・引用文献

堂野恵子・光本容子・堂野佐俊（2007）．絵本の読み聞かせが幼児の向社会性の発達に及ぼす効果．日本教育心理学会総会発表論文集, 49, 627.

川井薫栄・高橋道子・古橋エツ子（2008）．絵本の読み聞かせと親子のコミュニケーション．花園大学社会福祉学部研究紀要, 16, 83-96.

滝沢武久（1985）．子どもの思考と認知発達 大日本図書

土谷みち子（2001）．乳幼児期早期からのテレビ・ビデオ接触の問題点と臨床的保育活動の有効性．国立女性教育会館研究紀要, 5, 35-46.

謝辞

実験実施にご協力いただいた学校法人栄光学園栄光幼稚園（埼玉県三郷市）の皆様にご礼申し上げます。